

茨城大学大学院 理工学研究科都市システム工学専攻

平成29年度前期 専攻教育点検報告書

平成29年 9月 22日

報告者 都市システム工学専攻 専攻長 小林 薫

1. 実施日時と場所

平成29年9月22日（金）11:35～12:30 S2棟3F会議室

2. 出席者

常勤教員：金 利昭，桑原祐史，小林 薫，沼尾達弥，信岡尚道，原田隆郎，山田 稔，榎本忠夫，車谷麻緒，成田和彦，平田輝満，藤田昌史，辻村壮平，一ノ瀬 彩，増永英治（全常勤教員18名のうちの15名が出席）（常勤教員のうちの欠席者：呉智深，横木裕宗，熊澤貴之）

非常勤教員：なし

技術職員，事務職員：なし

3. 添付資料

資料1 会議議事録

資料2 2017年度（平成29年度）学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会 議事次第

資料3 2017年度（平成29年度）前期授業点検改善表資料集

資料4 2017年度（平成29年度）大学院における特別研究と演習に関する報告

4. 授業点検の実際

4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下の通りである。

常勤教員担当科目分： 14科目／常勤教員担当科目総数17

非常勤教員担当科目分： 1科目／非常勤教員担当科目総数1

4. 2 点検した科目

応用水理学特論，構造解析学特論，建築構造デザイン学特論，建築都市デザインスタジオ1，建築都市計画学特論，国土空間情報特論，土木計画学特論，建築環境設計学特論，水質工学特論，建築都市デザインスタジオ2，建築構造デザイン演習，構造工学特論，建築史・意匠特論，土質基礎工学特論，リスクマネジメント特論

（前期に開講した専門科目の総数17科目中の82パーセント。都市システム工学専攻学外実習、建築実務実習、ワークショップの3科目については通年科目や集中科目であるため、後期に点検する。）

4. 3 具体的な点検方法

特別研究・特別演習を除く授業科目（14科目）については以下の方法で点検を実施した。各科目の具体的な点検結果は、資料1 会議議事録を参照のこと。

- ・ 各科目について、担当教員が授業の内容や課題等をシラバスに基づいて紹介するとともに、本会議の出席者と質疑を行うことで当該授業の課題・問題を明確にし、その後、授業点検改善表及び授業アンケートの集計結果などで指摘が挙げられた点を中心に、授業方法の優れている点、改善すべき点について3分間程度で自己評価を行った。
- ・ 前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題について行った対応を、授業点検改善表を用いて各出席者が確認した。
- ・ 都市システム工学演習Ⅰ・特別研究Ⅰ及びサステナビリティ学特別演習Ⅰ・特別研究Ⅰについては、指導教員または学生所属研究室毎に授業内容とその効果測定方法を記述した書式を提出してもらい、点検を行った。

4. 4 特別実験、特別演習等の実施状況など

本専攻では、都市システム工学演習Ⅰ、サステナビリティ学特別演習Ⅰ、都市システム工学特別研究Ⅰ、サステナビリティ学特別研究Ⅰの4科目を大学院の必修科目として実施している。それぞれ、指導教員が各授業科目を担当であり実施内容にも教員による違いがあるが、概ね学生が所属する研究グループごとに評価方法や証拠保存等を行っており、その具体的な実施状況は別紙 資料4 に示す通りである。

（1）都市システム工学特別演習Ⅰ/サステナビリティ学特別演習Ⅰ

実施の状況：本実験では、学生が修士論文の研究で必要となる研究背景や目的について文献調査を行うとともに、研究データの収集と整理等を行う。

実施の証拠とその保存状況：実験実施の事実を証明するものとして、学生が作成した文献整理資料、レジュメ、説明用PPT等を作成し、研究指導教員に提出することになっている。それらの資料等は、ファイリングまたは電子データとして保存等を行う。

成績評価の方法：各指導教員は、研究レビューの発表や提出された資料に基づいて内容を確認し、その内容に応じて成績評価を行う。

（2）都市システム工学特別研究Ⅰ/サステナビリティ学特別研究Ⅰ

実施の状況：本研究では、学生が修士論文の研究の途中経過をまとめ、それを中間発表会や各種関連学会で分かりやすく報告することになっている。

実施の証拠とその保存状況：中間発表会のために学生が作成したレジュメ（A4判両面1枚）や発表時のPPT等を指導教員が取りまとめて保存している。

成績評価の方法：中間発表会や学会報告等において、各学生の発表内容を指導教員が確認し、その内容に応じて成績評価を行う。

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

- ・ 昨年度に挙げた改善点は、基礎知識（学部の知識）が十分に身に付いていない学生が一定割合みられることが課題であった。これについて、本年度は各科目で多少授業進度が遅くなってしまうものもあったが、学生の理解度を捉えて基礎レベルも含んだ講義を実施しているものもみられ、それらは授業アンケートの集計結果から学習意欲の向上など一定の効果が認められている。

5. 2 今回の授業方法で優れている点

- ・ 建築都市デザインスタジオ1では、実社会との接点を持つことを目標に取り組み、笠間市菊祭り実行委員会に3回のプレゼンテーションを実施し、学生が計画した提案がそこで実現化されることが報告された。
- ・ 水質工学境設計学特論では、実際のプログラムから計算結果を算出するまでの内容を扱い、技術士二次試験（上下水道分野）の内容と関連させる工夫が行われている。
- ・ リスクマネジメント特論では、合意形成の実務者を講師に招いて授業を実施しており、履修者の意識が高まったことが報告された。

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

- ・ 学生の授業に臨む意識や基礎知識量にバラツキがみられる（特に意識の高い学生と低い学生がいる）ことが示されたが、授業方法で改善すべき課題は特段みられなかった。

6. 教育改善活動

5. 3節と同様に、学生の授業に臨む意識や基礎知識量にバラツキがみられることが報告され、FD出席者でそれを認識したが、特段に授業方法で改善すべき課題はなかった。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を学科事務室に備え、専攻の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. その他

特になし。